

事業所名

社会福祉法人 愛誠会 いっぽ

支援プログラム

作成日

2024 年

9 月

20 日

法人（事業所）理念		1. 利用者が求める福祉・医療サービスを過不足なく、誠実かつ高潔に提供する。 2. 地域社会・保護者・他機関・職員等との良好な関係を創る。 3. 公正で透明性の高い健全な経営を行う。								
支援方針		あそびや様々な体験からお子様の「やりたい」「しりたい」という気持ちを育みます。 お父さん、お母さんの不安や悩みに寄り添って一緒にお子様の成長をサポートします。								
営業時間		9 時	30 分	から	15 時	30 分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容（カテゴリのみ表記、詳細は別紙参照）										
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態の維持・改善</li> <li>生活リズムや生活習慣の形成</li> <li>基本的な生活スキルの獲得</li> </ul>								
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢と運動・動作の向上</li> <li>姿勢と運動・動作の補助的手段の活用</li> <li>保有する感覚の総合的な活用</li> </ul>								
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知の発達と行動の習得</li> <li>空間、時間、数等の概念の形成の習得</li> <li>対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得</li> </ul>								
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語の形成と活用</li> <li>言語の受容及び表出</li> <li>コミュニケーションの基本的機能の向上</li> <li>コミュニケーションの手段の選択と活用</li> </ul>								
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者との関わり（人間関係）の形成</li> <li>自己の理解と行動の調整</li> <li>仲間づくりと集団への参加</li> </ul>								
家族支援		保護者面談の時間を3か月に1回設け、当所での様子を丁寧に伝えるとともに、家庭での様子を聞き取り、情報交換をするとともに、親御さんの心配事への助言を行います。				移行支援		並行通園をしている保育所と、本人の状況や支援内容などの情報を共有します。		
地域支援・地域連携		地域の保育所、認定こども園、幼稚園との交流をしながら、子どもだけでなく、職員間の連携を図ります。また、（自立支援）協議会に参加し、役割分担をしながら子どもの支援ができるようにします。				職員の質の向上				
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> <li>季節の行事（お正月、節分、進級・卒園おめでとうの会、七夕、夏祭り、秋祭り、ハロウィン、クリスマス など）</li> <li>ファミリーミーティング（年1回）</li> <li>土曜日活動（月1回）（遠足、買い物、クッキング、ドライブ、電車・バスに乗車 など）</li> </ul>								

事業所名 社会福祉法人 愛誠会 いっぱ

## 支援プログラム

作成日 2024年 9月 20日

		支援内容
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態の把握（健康状態のチェックと必要な対応を実施していく。利用中に体調の変化がある場合には適切な対応を行っていく）</li> <li>健康の増進（口腔内機能、感覚等に配慮することや、摂食時の姿勢の調整および自助具等に関する支援を行う）</li> <li>基本的な生活スキルの獲得（食事、衣類の着脱、排泄、身なりを整える等の生活を営むうえで必要となる基本的技能の習得に対して、1対1での対応を基本とし視覚情報の提示など子どもの障害特性に合わせた指導を実践していく。）</li> <li>構造化等により生活環境を整える（子どもの特性に合わせた環境面からのアプローチを実践していく）</li> </ul>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢と運動・動作の基本的技能の向上（一人一人の子どもに日常必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持、強化などに関する支援内容を実践していく）</li> <li>姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用（姿勢の保持や各種運動、動作が困難な場合があれば、様々な補助用具等の補助手段を活用し支援していく）</li> <li>身体の移動能力の向上（子どもの障害特性に合わせて自力での身体移動や歩行など、日常生活に必要な移動能力の向上のために運動に関する支援プログラムを実施していく）サーキット、ボール遊び、鬼ごっこ等</li> <li>保有する感覚の活用（子どもの発達段階及び特性に配慮した視覚、聴覚、触覚当の感覚を十分に活用できるような遊びを実践していく）新聞遊び・ボールプール・トランポリン等</li> <li>感覚の補助及び代行手段の活用（保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡等の各種の補助機器を活用できるように支援する）</li> <li>感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応（感覚や認知の特性&lt;感覚の過敏や鈍麻&gt;を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の提案及び支援を行う）</li> </ul>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚や認知の活用（視覚、聴覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促すために制作活動&lt;例：折り紙など&gt;や身体遊び&lt;トランポリンなど&gt;を取り入れていく）</li> <li>知覚から行動への認知過程の発達（子どもの特性に合った環境調整ならびに関わり方に関する支援を実施していく）</li> <li>認知や行動の手掛かりとなる概念の形成（物の機能や属性、形、色、音が変化の様子、空間、時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用出来るように机上であれば認知教材&lt;型はめなど&gt;を活用し取り組んでいく）</li> <li>数量、大小、色等の習得（日常生活場面での活動&lt;食事や衣服の着脱など&gt;を通じて、子どもの発達段階に対応した数量、形の大きさ、重さ、色の違いなどの習得のための具体的な働きかけ&lt;例：声替えなど&gt;を日常生活の中で行う）</li> <li>認知の偏りへの対応（認知の特性を把握し情報を適切に処理できるような環境調整や支援者の関わり方の指導や調整を行っていく。また、保護者に対しても認知の偏り等の個々の特性に関する情報を伝えこたわりや偏食等に対する家庭での具体的な支援を提案していく）</li> <li>行動障害への予防及び対応（知覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害に対して事前に環境調整など予防策を講じ、適切行動の獲得に向けた適切な支援をおこなう）</li> </ul>
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語の形成と活用（具体的な事物や体験と言葉の意味を結び付ける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援をしていく）</li> <li>受容言語と表出言語の支援（子どもの発達段階に応じた話し言葉や各種文字、記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う）</li> <li>人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得（個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、コミュニケーション能力の向上の為の支援を行う）</li> <li>指差し、身振り、サイン等の活用（子どもの発達段階に対応するコミュニケーション手段&lt;例：指差し・身振り・サイン等&gt;を選定し、環境の理解と意思の伝達ができる機会を積み重ねていけるように環境及び関わり方の調整を実施していく）</li> </ul>
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>アタッチメント（愛情行動）の形成（人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を実施していく）</li> <li>模倣行動の支援（遊び等を通じて人の動きを模範することにより、社会性や対人関係の芽生えを促していく。）</li> <li>感覚遊びから省庁遊びへの支援（感覚機能を使った遊び、運動機能を働かせる遊びの環境を整え、その上で、次の発達段階として見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びへの促すための関わり方を提案し支援者が実践していく中で、徐々に社会性の発達を支援する）</li> <li>一人遊びから協同遊びへの支援（周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊び、大人が介入して行う連動的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びといったスモールステップでの遊びの育ちを促し社会性の発達を支援する）</li> <li>自己の理解とコントロールのための支援（大人を介して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちの調整ができるようになるための支援をしていく）</li> <li>集団への参加（子ども自らが自発的に集団に参加し手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加出来るよう支援していく）</li> </ul>